

"アフリカ系アメリカ人アスリートとアメリカ社会の関連性 アメリカプロスポーツの歴史と現状に焦点をあてて "

"A Study on Relationship of African-American Athletes and American Society ?Focusing on the History and Present Condition of American Professional Sport?"

1K05B238

指導教員 主査 堀野博幸先生

吉見 将明

副査 リー・トンブソン先生

【第1章 序論】

アフリカ系アメリカ人は総人口に比べ、多くのアメリカプロスポーツ競技で圧倒的優位に立っている。しかし、こうした黒人アスリートの活躍がステレオタイプを生み、他の分野で活躍するための弊害となっている。また、黒人アスリートがアメリカスポーツ界での成功は、激しい人種差別に耐え、闘い、ようやく手にしたものである。本稿の第2章ではアメリカにおけるアフリカ系アメリカ人の歴史を要約し、第3章でも競技別に黒人の歴史や現状をまとめていく。これらを踏まえて第4章ではアメリカスポーツにおけるアフリカ系アメリカ人とアメリカ社会の関連性について考察する。

【第2章 アメリカにおけるアフリカ系アメリカ人の歴史】

黒人は奴隷としてアフリカからアメリカに渡り、奴隷制度が廃止されるまで白人が経営する農園などの奴隷労働者として働いていた。だが黒人に対する差別が激化し、1964年に公民権法が制定されるまで白人と黒人の人種隔離がなされていた。

【第3章 スポーツ競技別に見る黒人】

野球ではニグロ・リーグという黒人専門リーグが設立され、それを経てジャッキー・ロビンソンがMLBにおける初の黒人選手となった。その後、黒人選手は増え続けたが、現在では減少傾向となっている。アメリカンフットボールでは、黒人差別が他のスポーツに比べてもスタッ

キングが顕著に現れていた。だが、現在では黒人と白人のポジションでの差別は消滅傾向にある。バスケットボールはアメリカンフットボールと並んで、人種統合に成功したスポーツであった。2008年には黒人選手がNBA全体の77%で占められており、黒人がマジョリティとなっている。NHLでは、黒人選手の数が他のスポーツリーグに比べ圧倒的に少ない。ウィンタースポーツをプレーするには比較的金が必要であり、貧困層の多い黒人にとって進出しづらいスポーツであることが考えられる。ボクシングでは特に重量級において黒人が世界チャンピオンとなっている。また、モハメド・アリという1960年代のアメリカ社会に大きな影響を与えた黒人選手を輩出している。陸上競技はオリンピックにおいても数々の黒人金メダリストを送り出している。特に短距離種目での活躍が目立ち、100m走における白人選手が出した10秒0というベストタイムは世界歴代200傑にも入っていない。

【第4章 考察・まとめ】

多くのアメリカスポーツ競技や黒人アスリートは、それぞれの時代の社会背景を映し出す鏡となっており、逆に黒人アスリートによっても社会の黒人に対する見方に影響を与えていた。年代が進むにつれ、黒人に対する差別や偏見は緩和してきており、それがアフリカ系アメリカ人のスポーツという分野での成功に導いた一つの要因となった。だが、黒人が成功されたといわれるスポーツでも、貧困によってスポーツを

選択することが限られている点や、スポーツ界での管理職も白人で占められている問題、黒人をスポーツという分野に閉じ込めるステレオタイプの存在など多くの問題を残している。今後のアメリカ系アフリカ人の展望として、スポーツ以外の分野での黒人の成功は、その分野での黒人の受け入れを容易にするような基盤を築き、役割モデルを果たすアフリカ系アメリカ人の出現が発展につながるのではないかと述べている。